

学校改革！教員の時間創造プロジェクト議論加速！

2017.12.22

時間創造プロジェクト事務局

■ 深水プロジェクトリーダーメッセージ

このプロジェクトが目指すものは、教員が授業や授業準備などの本務に集中できる環境をつくるとともに、自分の時間を確保し様々な経験を教育に還元してもらうことです。

具体的取組の10項目については実施することを前提に議論しており、学校現場の先生方からは最も効果的な手法についてご意見をいただいているところです。

さらに、今回、教員の長時間勤務の実態改善及び子どもと向き合う時間の確保のために、教員の時間創造のための新しい「時間創造のタネ」をご提案いただきたいと思います。ご提案いただいた「時間創造のタネ」は、教育委員会事務局と学校現場が一体となってその実現に向け取り組んでいきます。

この改革は、今年度中を目処に方針を決定することとしており、残された時間がほとんどないのが現状です。同時

に走りながら結論を示さなければなりません。学校現場の全ての先生方が本プロジェクトによる負担軽減を実感できるよう、一丸となって全力で取り組んでまいります。



■ 第2回会議報告（意見交換内容）

平成29年11月20日（月）、第2回プロジェクト会議を開催しました。主な意見交換の内容は以下のとおりです。

【プログラムの策定】

- ・目標値の設定は大事だと思うが目標値達成のために、持ち帰り業務時間が増えることを危惧している。
- ・長時間勤務の業務内容の調査が必要ではないか。

【学校閉庁日の設定】

- ・小学校長会ではお盆前後に全市一斉でという意見が多かった。また、1月4日という意見もあった。
- ・中学校長会はお盆前後の3日間が最も多かった。
- ・学校閉庁日は、学校は閉まっているが職員は勤務日である。全員が年休又は夏休を使い勤務を要しない日としての共通認識ができるか。

【運動部活動】

- ・小学校の部活動については、その対応に多くの学校が大変苦慮している。県が廃止する中、熊本市はどうなっていくのか。

・中学校の運動部活動では、他都市の例にもあるように外部指導者の単独指導や引率を認めてもらいたい。また、専門性が高くないでもいいので、学びノート教室サポーターのようなスタッフを中学校部活動にも配置してもらいたい。

【事務機能の強化】

- ・サービスの年休処理を事務室に移管できると助かる。

【その他】

- ・職員が研修等に参加する際の代替職員の派遣など職員が安心して研修にいける仕組みを提案できないか。
- ・スポーツ振興センターへの支払いや銀行から保護者への直接入金が同時にできないか。
- ・中学校区に1人ずつSSWの配置をお願いできないか。
- ・土曜授業が来年度より始まるが、本プロジェクトの趣旨との整合性はどうか。

※上記の他にも、大変貴重なご意見をいただきました。

✓ プロジェクト進捗状況

■ 第2回プロジェクト会議（11.20）

- ◆緊急提言への対応としての具体的取組内容（案）、実現への課題、実現への方策、スケジュール等を提示し意見交換を行った。

- ◆実施プログラムの策定概要を提示し意見交換を行った。

【期間】平成29年度～31年度の3年間

【構成】（1）取組の方向性（2）具体的取組

【指標】教職員の勤務時間の削減に関する指標の設定

【進捗】プロジェクトの中で、毎年度の取組の進捗状況や実績について検証しながら推進していく。

【予定】平成30年3月の定例教育委員会会議で議案提出

■ 事務局内協議（11.27）

- ◆これまでの意見交換内容を踏まえて、既に着手している取組及び方向性が明確になった取組以外について、事務局内に部会をつくり協議を行った。

- ◆緊急提言の対応以外で「プロジェクトで改善に取り組むべきとした事項」として以下の3項目を第3回プロジェクト会議で提案することとした。

- ①教員の事務補助スタッフの配置
- ②SSWの増員
- ③学校支援ボランティアの活用



💡 時間創造のタネ募集

■ 目的

教職員の「気づき」を促し業務改善を推進することで、教員の長時間勤務の実態改善及び子どもと向き合う時間の確保を目指します。

■ 提案の方法

全庁共用＞Cネット関連情報＞受取箱リンク集＞教育委員会事務局＞教育総務部＞教育政策課受取箱＞★★「時間創造のタネ」に直接入力

■ 提案の内容

教職員の「気づき」から生まれた勤務時間の削減、業務改善、職員が働きやすくなるようなアイデアなど。

■ 提案の取扱

提案されたアイデアは、プロジェクトに諮るとともに順次公開していきます。

❗ メンバー紹介

教頭としての日常業務を振り返ったり、先生方が元気で笑顔ある職場環境とはどうあるべきかを考えたりする日々です。

予測困難な未来を生き抜く子どもたちにとっての学校の在り方も含めて考える大事な時期であると思います。

託麻中学校 教頭 水田 貴光



「学校って働きたい魅力のある場所だろうか。」教員の働き方を考える時、同時に他職種の働き方も見直す事が必須と考えます。学校に携わる全ての人々が子どもの教育を共に担う意識を持ち、各々が専門性を生かし、いきいきと働いていけるための取り組みが進めばと思って会議に臨んでいます。

力合西小学校 事務主任 松本 由紀子